

令和元年度再編効果アンケート調査結果について

1. アンケート調査概要

(1) 目的

再編による利用機会の増加率を推計し、再編による効果を把握するため、以下に示す三種類のアンケート調査を実施した。三種類ともに少数の個人属性および、現状の利用頻度と再編実施後の利用頻度を問う内容とした。なお、利用者アンケート調査のみ質問6の回答方式を自由記述方式とした。

(2) 概要

利用者アンケート、非利用者アンケート（沿線居住者対象、沿線施設利用者対象）の調査概要は以下の通り。

表 1 アンケート調査概要

	利用者アンケート	非利用者アンケート	
		沿線居住者	沿線施設利用者
対象者	対象路線(都心幹線／新町玉村線／前橋線)のバス利用者	対象路線(新町玉村線／前橋線／上毛電鉄)の沿線居住者	対象路線(都心幹線／新町玉村線／前橋線)の沿線施設利用者
配布手法	バス停にて配布 ※新玉線のみ乗り込み	沿線地域を対象にポスティング	施設の来訪者に対し、手渡しによる配布 ※南高校は学校の協力により全数配布
配布数	988	5,280	3,270
回収数	310	1,444	1,105
回収率	31.4%	27.6%	33.8%
調査項目	①年齢 ②職業 ③住所(丁目)まで ④再編後のバス利用増有無(はい/いいえ/どちらでもない) ⑤再編後の利用頻度(④で「はい」の回答者のみ) ⑥再編後バス利用を増やさない理由(④で「いいえ」の回答者のみ) ※利用者アンケートについては記述回答のみ。それ以外は選択式+記述回答。 ⑦現在のバス利用頻度		

(3) 再編概要チラシ

調査票配布にあたっては、依頼状兼再編概要チラシを封筒に同封した。以下に示すのは都心幹線を対象とした再編概要チラシであり、新町玉村線、前橋線についてもそれぞれ調査対象路線に応じた再編図を同封した。

表 2 再編概要チラシ(抜粋)

再編概要チラシ(抜粋)

中心市街地のバスの 使いやすさ向上を検討中!

改善案

- まちなかの移動でバスが使いやすくなります。
- 前橋駅で鉄道への乗り継ぎ時間が長くないようにします。
- 中央前橋駅経由県庁方面のバスを新設し、立川町周辺へ行きやすくします。
- まちなかからけやきウォークへ、バスで行きやすくなります。

本町・中央前橋ラインから4便/時間程度を直通運行

概ね 1便/時間
※前橋駅～立川町通
～県庁前を經由する系統

日中 30分間隔

前橋公園方面へも一部直通

一部便は敷島公園方面直通

一部便は高崎・棟東方面直通

立川町通りのバスも便利に

中央前橋駅から県庁方面へバスで接続

一部便は高崎方面直通

一部便は高崎方面直通

都心部を通る路線をパターンダイヤ化で使いやすく

日中最大 25分間隔
※県庁方面行き前橋駅発時刻

日中最大 10分間隔

本町・中央前橋ラインから4便/時間程度を直通運行

けやきウォーク前橋方面へも一部直通

一部便は玉村・広瀬団地方面直通

【凡例】

- 広域幹線(鉄道)
- 広域幹線(バス)
- 都心幹線バス(中央前橋ライン)
- 都心幹線バス(本町ライン)

※2019年11月時点計画中

- 上記のほか、前橋線、新町玉村線の再編概要、および、バス待ち環境や案内表示の改善イメージについても記載
- 市長名入り依頼文を同封

2. 利用者アンケート調査結果

(1) 再編によるバス利用回数の変化

質問4「別紙に示す再編が実現した場合、あなたはバスの利用回数を増やしますか？」という問いに対し、「1. はい」と答えた方の割合は以下の通り。

表 3 再編後のバスの利用回数の変化

	都心幹線	前橋線	新町玉村線
質問4に「1. はい」と答えた方の割合	43%	53%	61%

(2) 利用回数を増やすと答えた方の利用頻度の変化

再編が実現した場合、バスの利用回数を増やすと答えた方の、再編前後の利用頻度は以下の通り。

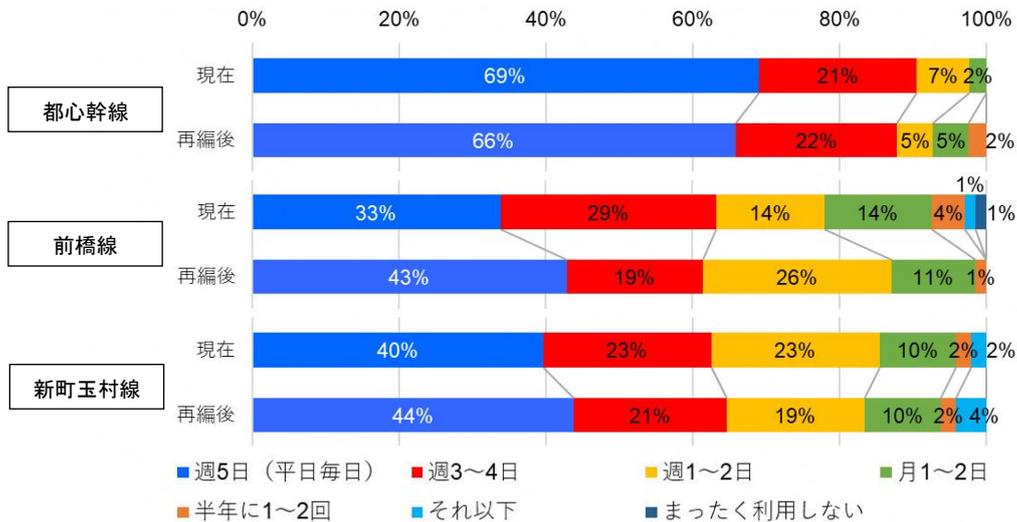


図 1 再編後のバス利用頻度の変化

(3) 再編実現後もバスの利用回数を増やさない理由

質問6「バスの利用を増やさない理由」についての回答は、路線ごとに以下の主な意見が見られた。

表 4 バスの利用を増やさない理由(自由記述)

	主な意見
都心幹線	・再編が実現したら、土日に別の路線で外出するケースは確実に増える ・通勤にのみ利用しており利便性が改善しても利用回数は増えない 等
前橋線	・一定の時間間隔では鉄道との接続は不十分 ・パターンダイヤ化によって本数が減少するのであれば、現状の方が良い ・通勤のみの移動で現状より増えない 等
新町玉村線	・仕事でのみ使用の為、通学目的で利用している為 等

3. 非利用者アンケート調査結果

(1) 再編による利用回数の変化

質問4「別紙に示す再編が実現した場合、あなたはバスの利用回数を増やしますか？」という問いに対し、「1. はい」と答えた方の割合は対象路線沿線居住者・沿線施設利用者ごとに以下の通り。

表 5 再編後のバスの利用回数の変化(沿線居住者)

	前橋線	新町玉村線	(上毛電鉄)
沿線居住者	41%	43%	27%

表 6 再編後のバス利用回数の変化(沿線施設利用者)

	都心幹線	前橋線	新町玉村線
沿線施設利用者	41%	20%	42%

(2) 利用回数を増やすと答えた方の利用頻度の変化

再編が実現した場合、バスの利用回数を増やすと答えた方の、再編前後の利用頻度は以下の通り。

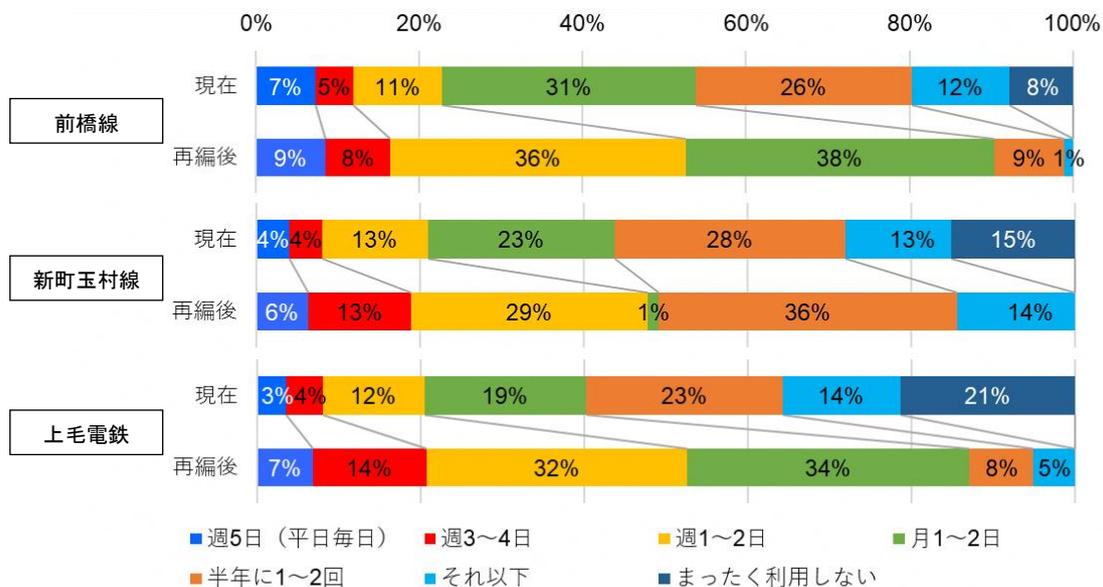


図 2 再編後のバスの利用頻度の変化(沿線居住者)

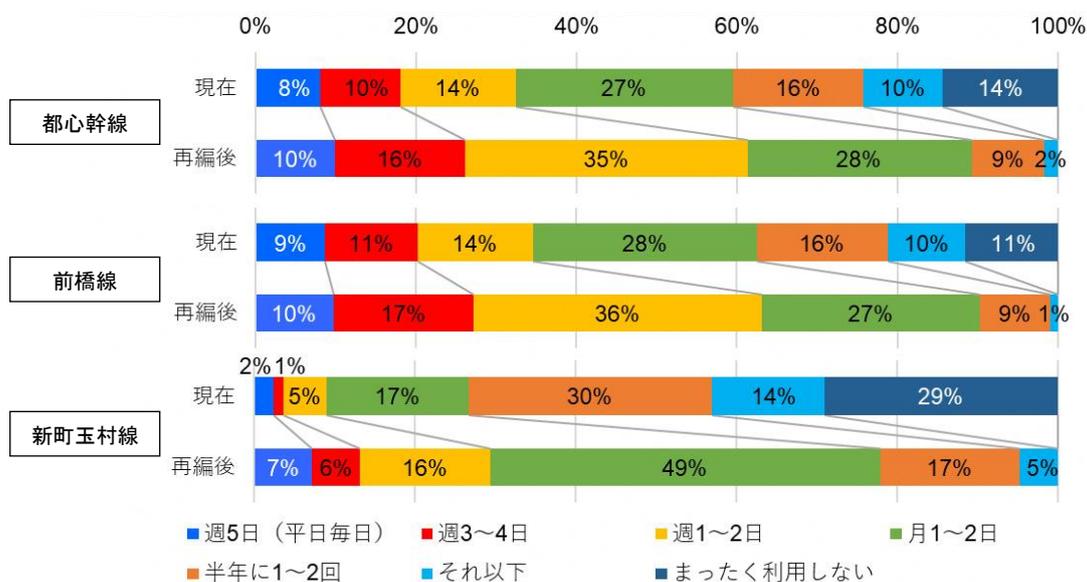


図 3 再編後のバスの利用頻度の変化(沿線施設利用者)

(3) 再編実現後もバスの利用回数を増やさない理由

質問6「バスの利用を増やさない理由」についての回答(複数回答可)は、路線ごとに以下の傾向が見られた。

表 7 バスの利用を増やさない理由(選択式)

再編後も利用回数を増やさない理由	沿線居住者			沿線施設利用者		
	前橋線	新町玉村	上毛電鉄	都心幹線	前橋線	新町玉村
バス停まで遠いため	23%	29%	39%	37%	31%	26%
バス沿線に目的地がない	21%	14%	29%	30%	32%	32%
車等の他の手段が便利だから	65%	64%	78%	56%	54%	45%

また、自由記述回答では、主に以下の意見が挙げられた。

表 8 バスの利用を増やさない理由(沿線居住者)

沿線居住	主な意見
前橋線	<ul style="list-style-type: none"> ・車を使った方がバスより経費がかからない ・料金がもう少し安くなれば積極的に利用したい ・本数が減るのでサービス低下である 等
新町玉村線	<ul style="list-style-type: none"> ・六供の現在のバス停が無くなるなら乗らない ・本数が少ない・運賃が高い 等
上毛電鉄	<ul style="list-style-type: none"> ・上毛電鉄を降りてからのバス利用が不便で、大胡駅からのバスも無く、市街地ばかりを充実させても時間ばかり掛かって不便さは解消されない ・都心だけでなく郊外の路線を強化してほしい 等

表 9 バスの利用を増やさない理由(沿線施設利用者)

沿線施設利用	主な意見
都心幹線	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の時刻表が会社ごとで分かりづらい ・マイタクやマイバスの利用が多い為 ・便が少ない・運賃が高い 等
前橋線	<ul style="list-style-type: none"> ・バスを利用する事自体が無いため ・自転車を使う、運賃が高い 等
新町玉村線	<ul style="list-style-type: none"> ・マイタクやマイバスの利用が多い為 ・本数が少ない 等

4. まとめ

(1) 考察

- ・現在バスを利用している方については、約半数以上が再編により利用回数が増える
と回答している(表 3)ものの、現状通勤・通学を主目的として利用している。従
って、現在の利用者については再編後も利用回数の大きな増加は見込まれないと想
定される。
- ・各路線沿線居住者に対する再編によるバス利用回数増への効果については、再編に
よる利用回数増と答えた方の割合が上毛電鉄沿線では 27%と低いものの、前橋線
沿線、新町玉村線沿線では 40%を超え、居住エリアにより期待される再編効果が
異なる(表 5)。
- ・沿線居住者、沿線施設利用者の再編後の利用頻度変化については、週に 1~2 回以
上の利用を選択した方の割合が再編前後でほぼ倍になっており(図 2, 図 3)、大幅
に利用回数が増えることが想定される。以上より、都心幹線/広域幹線ともに再編
によって現在利用していない層からの利用が期待される。

(2) 課題の整理

- ・非利用者のバス利用回数を増やさない理由(自由意見)の多くが「本数が少ない」
「運賃が高い」等のサービスレベルについての理由であったことから、再編による
サービスレベルの向上について強調することが課題である。
- ・アンケート結果から、上毛電鉄と都心幹線の接続によるバス利用への効果は広域幹
線沿線への効果より低いと想定されることから、今後は上電沿線居住者に対し、前
橋駅方面や県庁・市役所方面への回遊性向上などのメリットを提示することが課題
である。

(3) 実施効果の試算結果

本アンケート調査データを活用し再編後の利用者数を推計した。広域幹線・都心幹線ともに、再編により20%以上の利用者数増加が見込まれる。

表 10 再編後利用者数の試算

	都心幹線	広域幹線	
		前橋線	新町玉村線
現状利用者数	618	1,860	498
再編後利用者数	766	2,226	720
増加率	124%	120%	145%

再編後の利用者数については、下式により算出した利用回数の増減率を利用者数に乗じたものとして計算した。

1) 現状の利用者の利用回数の増加

1人1日当たり平均利用回数の増減率 = $\{(\text{再編後1人1日当たり平均利用回数} - \text{現在1人1日当たり平均利用回数}) \times \text{再編により利用回数を増やすと答えた人の割合}\} / \text{現在1人1日当たり平均利用回数}$

2) 沿線住民の利用回数の増加

1人1日当たり平均利用回数の増減幅 = $(\text{再編後1人1日当たり平均利用回数} - \text{現在1人1日当たり平均利用回数}) \times \text{再編により利用回数を増やすと答えた人の割合} \times 0.2$

3) 沿線施設来訪者の利用回数の増加

1人1日当たり平均利用回数の増減幅 = $(\text{再編後1人1日当たり平均利用回数} - \text{現在1人1日当たり平均利用回数}) \times \text{再編により利用回数を増やすと答えた人の割合} \times 0.2$